

2014年1月27日

「LT会」会報第14-01号(総135号)

上海 LT コンサルティンググループ

中国人がうんざりしながらも春節を重視する理由

中国人の正月である春節が間近に迫っている。多くの企業では休暇やシフト勤務の調整に頭を痛めていることだろう。今年は1月16日から春節の帰省ラッシュの幕が開き、中国最大規模の人民大移動が始まった。中国に赴任したばかりの駐在員や中国に赴任した経験のない日本本社の担当者の方は、おそらく「どうして中国人は春節となると、何が何でも慌てて故郷に帰りたがるのだろうか?」と思われることだろう。

春節は元々中国の伝統的な祭日の一つである。二十四節季の立春にあたり、農曆は正月一日に改められる。農曆12月23日ごろから様々な行事が始まり、除夕(大晦日)の家族との団欒と年始の挨拶、先祖の祭事等が特に重要とされる。国家発展と改革委員会の予測によれば、2014年の春節期間には1月16日から2月24日までの40日間で延べ36.23億人が何らかの交通機関を利用して移動するという。その多くは地方からの出稼ぎ農工や学生であり、飛行機や高速鉄道の利用が増えたとはいえ、低所得層や学生にとっては依然として料金の安い列車や長距離バスでの移動が一般的である。毎年、春節の帰省ラッシュが始まると、しばしば故郷を離れて都会で働く人々が帰郷の途に就く様子や、故郷で家族の帰りを待ちわびる人々の様子がテレビで取り上げられる。

春節帰省ラッシュで大混雑の駅



家族の帰郷を待ちわびる母親



中国が経済成長するにつれ、春節の商業化、イベント化が進んだことから、多くの中国人にとって、大きな経済的、心理的な負担となりつつある。都会で働く多くの若者、中でも高等教育を受けた「ホワイトカラー」層にとって春節は、忙しく厳しい都会の喧騒を離れ、東の間の一家団欒の時を過ごす機会であるとともに、家族や親せきから受ける様々なプレッシャーとの戦いの日々となる。

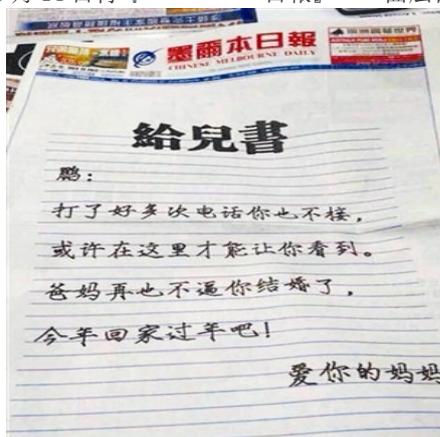
「××家の○○君は、大手企業の部長に昇進し、年収は・・・。」「△△さん一家は150㎡もある大きなマンションを購入し、車はBMWに乗っているらしい。」「親せきの子供たちにあげるお年玉は最低でも○○元はないと恥ずかしい。」等々、一年間必死に働き、節約して貯めたなけなしの金をはたいて買った土産を手し、長時間かけてやっとの思いで辿り着いた実家で聞かされるのは、こんな話ばかりである。

また、せっかくの休みだというのに、両親や親戚からは「今年は給料が上がったのかい?」、「ボーナスはいくらもらったの?」と繰り返し尋ねられる。全く遠慮のない質問攻勢にさらされると、「あー、帰ってこなければよかった。」とすぐに気分は落ち込んでしまう。

結婚して子供をもうけるのが最大の親孝行という伝統的思想があるため、独身者の場合更に、「恋人は見つかったのかい?」、「結婚はいつなの?」と延々と追及される。春節で実家に帰って見たら、本人に内緒でお見合いが用意されていたというのもよく聞く話だ。

最近、ある海外の中国語紙に、中国にいる母親が海外にいる息子の消息を尋ねる広告が掲載された。春節に家族との団欒を切望する母親の愛情には感動する一方で、親との連絡を断たざるを得なかった息子の気持ちも理解できるため、より切ない。

1月14日付『メルボルン日報』の一面広告



(広告の日本語訳)

息子よ

鹏へ

何度電話してもでてくれないから、これを見てくれるかもしれないと思っています。

母さんたちは、もうお前に結婚を迫ることはしないから、どうか今年の春節は家に帰ってきておくれ!

母より

それでもなお、中国人の絶対多数は、春節の一家団欒を重視し、一日も早く故郷に待つ家族の元に帰りたいと願っている。しばしば気が滅入るような場面があるとしても、故郷の家族の暖かさは一年間の苦労を癒してくれる。お金があってもなくても、どんなに時間がかかろうが、故郷に帰り歳を越さなければならない。春節こそが家族の情や親孝行を重視する中国人にとって面目躍如たる見せ場の一つだからである。

以上